

映画で学ぶ 環境問題



2012

監督：ローランド・エメリッヒ
出演：ジョン・キューザック
アマンダ・ピート
ダニー・グローヴァー
制作：米国・カナダ
上映時間：2時間38分

2012年明けてすぐの「映画で学ぶ環境問題」はそのタイトルもスバリ「2012」。

2009年に公開されたローランド・エメリッヒ監督の近未来SFパニック超大作です。

エメリッヒ監督の作品は、大日新聞5号の「ティ・アフター・トゥモロー」でも取り上げましたが、SFや近未来サスペンスをエンターテイメント豊かに仕上げることで、はかなりの才能あふれる監督です。

本作は、公開当時の2009年から始まり、米国やインドなどが中心となり、世界中の優秀な科学者の研究が行われている中、「ニュートリノ」が物理反応し新しい核粒子に変化した結果、地球の核（コア）が熱し、まるで電子レンジのように地球全体を熱しはじめていくことが判明します。それはいづれ、世界各国で大地震や火山噴火、津波などが巻き起こされ、世界全体が壊滅状態になってしまふことを意味するのですが、タイムリミットは3年・・・つまり2012年というわけです。

この映画では、大きな主題として「マヤ暦による終末予言」を題材にしているのですが、これは2012年12月22日に1つの時代が終わると、古代マヤのカレンダーに記されていること由来します。このカレンダーを元に2012年12月22日を終末の日と予言する人々が現実にも多くいることから、エメリッヒ監督はスペクタクルとブラックジョークを交えて壮大なスケールで一大作品に仕上げました。

では、この映画のどこから環境問題を学べるのかというと、マヤ人の天体観測の優秀さです。現代でこそ、コンピュータや巨大望遠鏡など、人類の叡智を結集したツールが数限りなくありますが、古代マヤ人に実

力を発揮させたのは、なんととても天体の透明度や星空の美しさ。解析力がいくらか優れていても、天王本来の様子が見えなかったなら、暦（こよみ）や周期の算出など、なかなかできることではありません。

では、私たちが見上げる天空や夜空はどうでしょうか？
都心部では、昭和初期には当たり前のように見えた「天の川」は言うに及ばず、地方都市でさえ今は「スバル」も危うい状況で、空気が汚れてきているのは誰もが知るところ。

しかも建築技術の向上で、高層建築物が多くなっていることから年々、星空が狭くなってきています。

コンピュータが解析する暦や未来予測も決して悪くはありませんが、満天の星空が教えてくれる導きも、やはり大切ではないでしょうか？

そんなことを考えながら映画を鑑賞していたのですが、最後は娯楽映画ならではのハッピーエンド。ハラハラドキドキしながらの2時間半は、ぜひご体験頂きたいものです。

★緑化事業の経緯
そもそも、防水材メーカーである当社がなぜ屋上緑化？という思いに至ったのかという思いです。当社が「環境にやさしい商品づくり」に取り組んでいることを大前提として、主に2つの理由があります。

一つは、もとより河川が砂防タムの擁壁や河川の護岸等へ向けた土木系の緑化（セダムマット）に取組むこと。これは、当社緑化事業のルーツといえます。

もう一つは、屋上・屋根に緑を設置すること。防水材メーカーとして、屋上・屋根の防水という緑化と最も接する部分に長年関わってきたノウハウが生かせることです。

★大日化成の緑化
当社が取り組んでいる緑化は多肉植物、芝生等が生育可能な「薄層緑化システム」です。「薄層」とは、できるだけ土厚を少なく、軽くする（基本土厚10cm、基本60kg/m²未満）ことです。確かに、土を多く入れた方が、多品種を植栽できますが、昨今のヒートアイランド対策にはより有効でしょう。しかしながら、「ECOII」建物に緑化する「というっても、効率、高密度を重

視する最近の建物には様々な制約があります。特に屋上・屋根への緑化は、防水との相性を維持管理（長期的な生育コスト）等多くのリスクを伴います。薄層緑化は、そういったリスクを回避しつつ、屋上緑化の需要を満足させるベストミックスのシステムといえます。

★最後に
当社がこの薄層「屋上」緑化事業に携わって約10年（緑化事業として20年）になります。まだまだ、わずかな年数ではありますが、緑化した建物は、大規模商業施設、タワー・マンションのようなど、大規模なものから、既存の建物、特に自治体の助成金対象となる戸建て住宅への緑化など多岐にわたります。

日本全国を見渡せば、当社の活動はまさに数々あるのです。また、会社として「ECO」であると同時に、事業でもあり、継続できるような大きな物件を獲得し、利益を生み続けることが重要です。

しかし、ネコの額でもいい、緑化しようという一人ひとりの、一つ一つの取り組みが大きなパワーとなる……。

地道ですが、着実にECOしているなあと思える表を見ながら「ンマリしている一担当者でした。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社06-6909-6755までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で対応させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

昨年6月に入社いたしました網澤と申します。入社後まだ間もないので会社の雰囲気や感じたこと、抱負などを書かせていただきました。お読みください。

ですがまだまだ下っ端なので、材料の注文も小まめに確認してない、最低在庫を切つてしまったり、製造工程までの事前準備にもまだ時間がかかってしまったり、製造以外のことにも目をむけるなど、いまいちリズムに乗れず毎日困惑しています。

これも初めは誰でも通る道なので今は一生懸命先輩に聞いて勉強していきます。

会社に入ってから一番驚いたのは過酷な職場だったこと。以前の職場とはまるで正反対な作業で驚きました。

ここで少し個人的な話になりますが、私は4年くらい前から体を鍛えるのにジムに通っています。きっかけは言わずと知れた社会人野球に誘われて合や練習をしていくにつれて自分の力不足に気づき、どうにか変わるうと思つて始めたのがきっかけです。

通つにつれて日に日に自分の体に変化が出てくるのを実感して自分自身に自信が持てるようになってきました。

今ではそれがエスカレーターで鍛えるのが趣味になり、週2〜3回のペースで仕事終わりにジムに行きます。他日は家でランニングなどしてスタミナ強化に励んだりマンネリ化防止のためネットや本で新たなトレーニング法を見つけては参考にしたりと楽しみを見つけています。

こんな性格になつてしまったので毎日体を動かしながら仕事ができるのが楽しいです。

職場環境については入社して右も左もわからない一緒に仕事を教えてくれたり、面白おかしく話しかけてくれたり、ただ働き、大変充実した日々を過ごしております。

いじられるのにも慣れました。「みんな仲良く」って考えた私に合せて上司と先輩の下で働かしてもらってたいへん嬉しい限りです。

これからもいい先輩の方で楽しく仕事を続けていきたいと思っております。



岡山工場 製造部 網澤 伸哉
つなざわ しんや



次号も
お楽しみに

URL : <http://www.dainichikasei.co.jp>

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702

●東京支店
〒105-0013 東京都港区浜松町1-2-5
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803



大日化成 ECOへの取り組み

大日化成株式会社は、環境に配慮した事業の推進を目指す企業として積極的にエコ活動に取り組み、地球環境の保全と向上に貢献してまいります。